

2022
JULY

No.34

鹿児島大学 同窓会連合会報



大隅町「雄川の滝」

(撮影
歯学部
村岡信宏)

特別
寄稿

第41回鹿児島大学OB・OGゴルフ大会

共同獣医学部の取組み

共同獣医学部・学部長 三角 一浩

鹿児島大学同窓会連合会

鹿児島大学同窓会連合会会則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、鹿児島大学同窓会連合会と称する。

(目的)

第2条 本会は、鹿児島大学の各学部同窓会（以下「各学部同窓会」という。）の連合組織として、鹿児島大学の基本理念の達成に協力し、その発展に寄与するとともに、会員相互の交流及び親睦を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 鹿児島大学との連携及び協力
- (2) 各学部同窓会間の交流及び連携の推進
- (3) その他本会の目的に沿った事業活動

(支部)

第4条 本会に支部を置くことができる。

第2章 会員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる各学部同窓会及び特別会員を持って組織する。

各学部同窓会

- 鹿児島大学法文学部同窓会
- 鹿児島大学教育学部同窓会
- 鹿児島大学理学部同窓会南明会
- 鹿児島大学医学部同窓会
- 鹿児島大学歯学部同窓会
- 鹿児島大学工学部同窓会
- 鹿児島大学農学部あらた同窓会
- 鹿児島大学水産学部同窓会魚水会
- 鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

特別会員

- 鹿児島七高同窓会

第3章 役員等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 各学部同窓会からそれぞれ1名
- (3) 代表幹事 1名
- (4) 幹事 各学部同窓会及び鹿児島大学からそれぞれ1名
- (5) 評議員 各学部同窓会からそれぞれ4名
- (6) 監事 若干名
- (7) その他会長が認めた者

(役員を選任)

第7条 会長、代表幹事及び監事は、総会において選任する。

(役員の仕事)

- 第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
 - 3 代表幹事は会務の執行を総括し、事務局を統括する。
 - 4 幹事は本会と学部別同窓会との連絡調整を図るとともに、役員会及び幹事会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。
 - 5 評議員は総会の構成員として、重要事項を審議する。
 - 6 監事は業務及び会計の執行状況の監査を行う。

(役員任期)

第9条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員が生じた場合の補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

第10条 本会に、名誉会長及び顧問を置くことができる。

- 2 名誉会長及び顧問は、会長が委嘱する。
- 3 名誉会長及び顧問は、総会に出席し、意見を述べることができる。

第4章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、役員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第6条各号に掲げる役員をもって組織する。

- 2 総会は、次に掲げる事項を審議、決定する。
 - (1) 役員を選任に関する事項
 - (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
 - (3) 予算及び決算に関する事項
 - (4) 会則の改廃に関する事項
 - (5) その他会長が必要と認めた事項
- 3 総会は、毎年度1回、会長が招集し、その議長となる。
- 4 総会は、第1項に規定する役員過半数の出席により成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(役員会)

第13条 役員会は、会長、副会長、代表幹事、幹事及び監事をもって組織する。

- 2 役員会は、次に掲げる事項を審議する。
 - (1) 総会に付議すべき事項
 - (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第14条 幹事会は、会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

- 2 幹事会は、総会又は役員会において決定した業務の具体的執行計画等を審議する。

第5章 会計

(経費)

第15条 本会の経費は、学部別同窓会の分担金、寄附金等をもって充てる。

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

(監査)

第17条 会長は、会計年度ごとに決算書を作成し、監事の監査を受けなければならない。

第6章 事務局等

第18条 本会に、その事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局は、鹿児島大学総務部総務課内に置く。

(雑則)

第19条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この会則は、平成17年4月7日から施行する。

附則

この会則は、平成19年4月6日から施行する。

附則

この会則は、平成30年4月7日から施行する。

附則

この会則は、平成31年4月6日から施行する。

第34号会報(令和4年7月発行)に寄せて

同窓会連合会 会長 富永 茂人



鹿児島大学9学部9研究科を卒業・修了された11万人以上のOB、OGの皆様、お元気にお過ごしでしょうか？2020年1月に突然始まった「新型コロナウイルス感染症」のパンデミックから3年目に入り、皆様は不自由ながらも、それぞれの国、地域および職場において、新しい生活様式に対応してご活躍のことと存じます。皆様の不屈の精神に対して心からエールをお送りいたします。

このコロナ禍の中、各同窓会とも「新型コロナ感染」のリスクを下げるために「先輩・後輩および同窓生の絆」を深めることを目的とした各種懇親会を縮小・中止し、会議は書面やリモートで行うなど、「コロナ禍」前には無かった工夫をしながら同窓会活動を行っておられると聞いております。これらには多大のエネルギーを必要とし、同窓会活動を前進させるには大きなネックになっています。しかし最近、世界でも我が国でも「新型コロナの感染状況」などに対応して「十分な対応策」を取りながら正常な社会生活を取り戻す動きが出てきています。

同窓会連合会では、毎年入学式直後の土曜日に開催していた「総会」と「懇親会（卒業生の集い）」のうち、「総会」は2020年および2021年の2回、「懇親会（卒業生の集い）」は今年（2022年）も含めて3回中止いたしました。しかしながら、同窓会連合会の役員会・幹事会においても、「いつまでも萎縮した活動は出来ない」、「コロナの状況に臨機応変に合わせてできる限りの活動を再開するべき」との意見が出されています。同窓会連合会としても、「感染リスク」を下げる方策を取りながら、活動を徐々に再開していくべきと思います。

鹿児島大学同窓会連合会は各学部の連合体として発足した平成17（2005）年以降、鹿児島大学と連携・協力しながら順調に活動を拡大してきました（同窓会連合会HP <https://www.kagoshima-u.ac.jp/rengoukai/seturitu.html>）。そのようなコロナ以前の活動に俄かに戻ることはできないかもしれませんが、鹿児島大学の在学生や卒業生を支援する同窓会本来の活動を鹿児島大学執行部と連携・協力し、コロナ禍で利用が進んだりリモート活動も併用・工夫しながら、徐々にではあっても活動を再開して行きたいと思っております。そのために、卒業生・修了生の全会員のご理解とご協力をお願いいたしますとともに、アイデアなどもお寄せいただければ幸いです。よろしくご願ひ申し上げます。

目 次

第34号会報（令和4年7月発行）に寄せて	1
学長挨拶	2
鹿児島大学の近況	3
各学部同窓会活動報告	7
特別寄稿（水産学部、共同獣医学部）	16

学 長 挨拶

鹿児島大学長 佐野 輝



長く続くコロナ禍の中、そしてまた国際情勢も不穏な中、鹿児島大学同窓会連合会の皆様方におかれましては、お元気でお過ごしでしょうか。

さて、コロナ禍の中で考えることとして、この3月の卒業式・修了式での学長告辞で述べたお話をここに再掲させていただきます。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックを考える際に、感染症と闘った研究者として、近代細菌学の開祖といわれるフランスの科学者ルイ・パストゥールの名が挙げられます。新型コロナウイルス感染症でも予防法として大いに活躍しているワクチン療法ですが、弱毒化した病原体を接種することで感染症の予防をもたらすというワクチン療法の考案もパストゥールの大いなる功績です。彼は名言をたくさん残していますが、今、学び舎を去り社会に飛び立つ、もしくは、学びを続けて更なる高みを目指す、そんな君たちに心に留めおいてほしい次のような言葉があります。

「偉大な人々は目標を持ち、そうでない人々は願望を持つ。」

これからの人生を歩んでいく上で、願望のレベルではなく、明確な目標を持つことが人生を成功へと導くものであると意味していると考えます。諸君も身近な目標と共に中長期にわたる目標をしっかりと持って日々の生活を送ることの大切さを頭に置いて欲しいと思います。また、パストゥールは以下の言葉も残しています。

「科学と平和が、無知と戦争に勝利することを、私は確信している。」

国際情勢の不穏な今日この頃ですが、この時期に本学で学びを得た諸君にも、全世界で学問の自由が保障され、社会の平和と自由で安全な環境の実現を希求して欲しいと考えます。今後の人生において、是非このことを念頭に振る舞っていただきたいと存じます。

3年連続で縮小して開催した卒業式・修了式でしたが、世界情勢を踏まえた言葉とともに学生諸君を送り出しました。

さて、話は変わりましたが、本年4月からは、国立大学法人では今後6年間続きます第4期中期目標期間が始まりました。国立大学の在り方については、社会からの声益が益々強くなりつつあり、これらに柔軟に対応できるように、そして成果を評価された上で運営費交付金に大きく反映されるようになってまいりました関係で、危機感を持って運営費交付金の配分も増えるよう、教育、研究、そして改革に取り組んでいきたいと思っております。「第4期中期目標期間に向けた学長ビジョン」に描かせていただいたように第4期中期目標にはSDGsを意識することをも盛り込んでいます。以下の5つの基本目標を掲げて具体的な内容を示しています。

1. グローカル人材の養成に向けた教育改革
2. 大学の強みと特色を活かした学術研究の推進
3. 地域課題に応える社会貢献、産学連携の推進
4. 地域を支える質の高い医療の提供
5. 自己分析に基づく的確な組織整備と運営

今後、これらの目標の実現に向けて、さまざまな取組を進めて参りたいと考えております。執行部及び部局長をはじめとした構成員が一丸となりまして、第4期における取組を着実に進めたいと思っておりますので、同窓会連合会の皆様にも今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。

鹿児島大学の近況

－進取の気風あふれる総合大学－

(2021年11月から2022年4月までのトピックス)

○桑の葉に豊富に含まれるフィセチンが血管の痙攣を予防することを発見 (11月10日)

農学部食料生命科学科生分子機能学研究室の 加治屋勝子講師がリーダーを務める研究グループは、桑の葉にフィセチンというポリフェノール類の一種が豊富に含まれており、このフィセチンが血管の痙攣を予防することを発見し、その活性部位を特定することに成功しました。

血管が異常な収縮を起こして攣縮すると、脳梗塞や心筋梗塞、片頭痛やめまいなど様々な病気を引き起こします。そのため、加治屋らは血管の異常収縮を予防するための食材を探索し、桑の葉が有効であることを突き止めました。なぜ桑の葉が血管の異常収縮を予防することができるのか科学的に解明するため、中心的な役割を担う成分を調べたところ「Fisetin(フィセチン)」であることを特定しました。フィセチンはポリフェノール類の一種で、類似構造を持つ物質がたくさん存在するため、活性部位を特定することでフィセチンの優位性を明らかにすることができました。また、フィセチンはイチゴやリンゴに含まれることが報告されていますが、本研究で用いた薩摩川内市産の有機桑葉(宮園製茶提供)にはイチゴの約100倍のフィセチンが含まれていることを大学院連合農学研究科の 鶴留奈津子さんが明らかにしました。

この研究成果は、英文誌「BioFactors」に掲載され、本研究により、桑の葉を活用した新商品開発やフィセチンの利用途拡大に繋がることが期待されます。なお、本研究成果の活用として、鹿児島大学と宮園製茶との共同研究から生まれた「桑の葉あめ」が開発され、販売されています。また、11月24-26日に開催されるアグリビジネス創出フェア(東京ビックサイト)にも研究シーズとして出展されます。

○南九州畜産獣医学拠点事業に係る合同記者発表を実施 (11月10日)

11月1日、曾於市役所において本学と曾於市で合同記者発表を行い、曾於市の財部高校跡地に「南九州畜産獣医学拠点」を令和6年4月に開設する意向を表明しました。

本拠点設置により、曾於市は、財部駅から拠点施設までの活性化、次世代型農場での研修等の受入、修学旅行誘致(市内外の学生)、拠点農場産牛・鶏のブランド化事業等により、同市の地方創生事業に取り組むことを目的としております。このことにより、地方活性化を目指し、人材育成、産業創造、交流人口の増に繋げることができ、また、本拠点において本学は、「動物福祉に配慮したモデル農場における実践的な畜産獣医学拠点の構築」をすることにより、他大学でも産業動物の臨床実習に苦慮しているところですが、全国から獣医学部生を毎年約500名受入、動物衛生学と産業動物臨床獣医学に関する参加型実習プログラムを開講することとしております。この他、JGAP認証機関の認定を来年度は目指しており、我が国有数の畜産基地である南九州の畜産獣医学を支える専門職業人の養成を本拠点で行うことができます。

五位塚剛曾於市長から「令和6年度の本事業の開所に向けて、9月には曾於市議会において設計費用の提案・可決をいただき、また、9月18日には住民説明会を開催し地域住民の方々から本事業に対する忌憚のないご意見を賜り、本事業の整備は順調に進んでいるところです。この拠点で全国の獣医学部生が実習等を行い全国各地でご活躍できることを本当にうれしく思います。今後も、鹿児島大学と一緒に本拠点整備を更に進めて参りますので、皆様方のご支援ご協力をよろしくお願いいたします」と挨拶があり、引き続き、佐野輝鹿児島大学学長から「財部高校跡地は、鹿児島大学だけではなく全国の獣医学や畜産学を学ぶ学生達の教育の場として、既に獣医師免許を取得されておられる獣医師の学び直しの場として、また畜産関連の企業や業者の方々の実践の場としてご活用頂き、地域の方々とも交流しながら、活気にあふれる畜産獣医学拠点として地域に貢献できる場になりたいと思っております。令和6年4月の拠点開設を目指して、今後、曾於市と鹿児島大学が協力し整備を順次進めて参りますので、皆様方のご協力を心よりお願い申し上げます」と、挨拶がありました。

曾於市と鹿児島大学は、令和6年4月の南九州畜産獣医学拠点の開設を目指し、更なる連携の下、拠点整備を進めていくこととしています。

○小型浮魚類の産卵及び成育場としての北部薩南海域の重要性を明らかに (11月22日)

水産学部の久米・小針・塩崎研究室では、熊本県立大学、東京大学大気海洋研究所との共同研究により、北部薩南海域が多くの小型浮魚類にとって重要な産卵及び成育場として利用され、日本の太平洋沿岸資源を支える可能性が極めて高いことを明らかにしました。

アジ、サバ、イワシ類に代表される小型浮魚類は、私たちの食卓を支える重要な水産資源です。2015年以降、練習船南星丸により継続実施してきた調査結果から、鹿児島湾口部から大隅海峡に広がる北部薩南海域には、小型浮魚類の大規模な産卵及び成育場が形成されていることが明らかとなりました。

鹿児島湾の湾口部では冬季から春季にかけて黒潮の分岐流が表層から流入し、これに伴い流出する底層水の湧昇が春季ブルームを引き起こします。ブルームは仔稚魚に豊かな餌環境を提供し、産卵及び成育場の形成の主要因となっていると考えられます。小型浮魚類は仔稚魚の分散に黒潮を利用しており、成長、加入した個体の多くは黒潮下流の日本の太平洋沿岸域で漁獲されていますので、北部薩南海域は我が国の太平洋沿岸域の水産資源を支え、資源を今後適正に管理していく上での鍵となります。

なお、これらの研究成果は、国際誌（Frontiers in Marine Science, Estuarine, Coastal and Shelf Science, Marine Biology）に掲載されました。

○「第2回高木兼寛記念シンポジウム」を開催（12月2日）

医学部および大学院医歯学総合研究科は、11月23日に東京慈恵会医科大学（以下、慈恵医大）及び宮崎大学と合同で、「第2回高木兼寛記念シンポジウム」を開催しました。

このシンポジウムは本学と慈恵医大との包括連携協定に基づき、令和元年7月に慈恵医大を会場に開催された第1回のシンポジウムに続き、本学が当番校となり開催されたものです。今回からは宮崎大学も加わり、オンラインにて、3大学から教職員107名が参加しました。

当日は、橋口医学部長の開会の言葉及び3大学の学長からの挨拶の後、「コロナ禍での医療者教育の取り組み：特に実習に関して」をテーマに、各大学の教員による講演がありました。

講演では、コロナ禍におけるチーム医療実習や臨床実習のあり方、診療の現場での対応等、各大学の取組について報告があり、活発な意見交換が行われました。

最後に、井戸章雄大学院医歯学総合研究科長より閉会の言葉が述べられ、コロナ禍が収束した際には、改めて鹿児島の地でシンポジウムを開催することを約束し、終了となりました。

コロナ禍での医療者教育について、各大学の取り組みを情報共有できる大変素晴らしいシンポジウムとなりました。

○鹿児島県の観光に活用できる鹿児島大学教育研究シーズMAP「さつつん観光ナビ」の運用を開始（2月2日）

産学・地域共創センターでは、県観光連盟の協力のもと、鹿児島県の観光に活用できる教育研究シーズMAP（Web版）「さつつん観光ナビ外部リンク」を制作して公開し、運用を開始しました。これは、新型コロナウイルスで大きな影響を受けている観光産業の現状及び裾野が広い観光産業の性格を踏まえ、総合大学の利を生かして全学部等から賛同する教員の協力を得、観光に関係する食、歴史、文化、自然、健康などの教育・研究シーズ（教員名、分野、活動のキーワード、活動範囲、活動実績など）を収集して実現させたものです。

「さつつん観光ナビ」は、地域における新たな観光資源の創造や磨き上げ、推進体制の充実など、観光振興に役立てていただくほか、地域での小・中・高校生の授業や生涯学習講座などの講師人材リストとしても活用いただけるものとなっています。

また観光を軸とした本学教員の教育・研究の成果を広く紹介することにより、地域課題解決に向けた関係教員による助言や受託研究・共同研究に取り組む機会が創出され、その成果を通じて鹿児島県観光の復興発展に貢献することも期待しております。

現在、44名の教員の教育・研究シーズが掲載されていますが、今後も教員の賛同者を募集し、提供内容を拡充させていく計画です。

○八代海の泥ハゼ、チワラスポの“オシリ”をカジる新種の甲殻類（2月7日）

大学院理工学研究科の上野大輔准教授が、出水市沿岸干潟の泥中に暮らすハゼ、チワラスポに共生する珍しい小型甲殻類を発見、報告しました。この甲殻類は新種で、更に種より上の分類階級である属と科に該当するものも存在しない極めて珍しい種で、新科新属新種として記載、報告されました。鹿児島県の沿岸域に、極めて珍しい生物が息づく貴重な事例となります。

【概要】

出水市、小次郎川の河口干潟で採集された泥潜行性のハゼ類チワラスポの臀鰭（しりびれ）上から、体長1.3 mm程度の微小な甲殻類1種が発見された。本種は新種として記載され、Choreftria shiranui（コレフトリア・シラヌイ）、標準和名：オシリカジリムシと命名された。この微小な甲殻類は、既存の属および科に当てはまらない形態を示す点で極めて珍しく、科および属についても本種のためのためにオシリカジ

リムシ科、オシリカジリムシ属が新たに設立された。近縁な種が見つかっていないため、詳しい生態については謎である。本成果は英国の寄生虫学雑誌「Systematic Parasitology」のオンライン版にて、2022年1月24日付けで発表された。

【研究体制、発見と報告の経緯】

2021年5月、是枝侖旺さん（鹿児島大学農林水産学研究科・修士課程学生）が、出水市小次郎川河口干潟において砂泥中に潜っていたチワラスボ（体長約15cm）を採集し、その臀鰭に付着する本種雌個体（体長約1.3mm）を発見した。小型甲殻類の分類を専門とする上野准教授が形態を詳しく観察し、既存の属、更にはその上の科も該当するものが無いことが明らかになったため、新科新属新種 *Choreftria shiranui* として記載された。新科、新属名はギリシャ語でダンサーを意味し、種名は産地八代海の別称、不知火海に由来する。本種の生態はほぼ不明であるが、チワラスボの臀鰭に取り付く事が明らかになっている。その生態と、上野准教授が好きなNHKみんなのうた「おしりかじり虫」のキャラクターに因み、標準和名はそれぞれ「オシリカジリムシ科」「オシリカジリムシ属」「オシリカジリムシ」として命名された。なお、標準和名の命名にあたり、NHKみんなのうた「おしりかじり虫」の番組制作をしたNHKとうるまのび氏、および、「おしりかじり虫（オシリカジリムシ）」の商標登録をしている株式会社NHKエンタープライズ様に事前相談し、差し障りがないことを確認済みである。

【発見の意義】

鹿児島県沿岸は、世界的にも生物相豊かな海域であり、これまでも多くの新種が発見されてきた。今後、その数は更に増えることが期待される。しかし、種よりも上の分類階級である属、さらにその上の科のレベルが新しく設立されることは極めて珍しく、甲殻類の進化の歴史を解明する上での学術的意義が大きい。なお、干潟に暮らす動物間には様々な共生関係が知られるが、地面の下という隠蔽的な環境でもあるためか、明らかになっていないも未だ多いことを示唆する好例でもある。本種の保全も視野に入れた、今後の研究が必要であると考えられる。

○総務省の異能 vation 「ジェネレーションアワード部門」にノミネート（2月14日）

理工学域工学系（海洋土木工学プログラム）の加古真一郎准教授の「ドローンとAIを用いた海岸漂着プラスチックごみ定量化手法の構築」に関する研究が、総務省が実施している2021年度異能 vation 「ジェネレーションアワード部門」にノミネートされました。

異能 vation プログラムは、ICT分野において破壊的な地球規模の価値創造を生み出すために、大いなる可能性がある奇想天外でアンビシャスな技術課題への挑戦を支援しているプログラムです。20,269件の応募があり、加古 真一郎 准教授の研究はそこからノミネートされました。

○第2回甕祭りを開催（4月20日）

水産学部では、4月11日から22日の間（土日を除く）、水産学部食堂にて第2回「こしき祭り」を開催しています。この企画は、水産学部水産経済学分野 鳥居享司准教授が中心となり、共同研究先の日笠山水産様と一緒に、「食」を通して水産業に関心をもってもらいたい、将来水産業に関する職に就いて日本の水産業を支えてほしいという思いを込めて、生活協同組合のご協力を得て実施されたものです。水産学部食堂では、学生に加え、教職員・漁業関係者・地域の方々など多くの方が、キビナゴTKG（385円）やキビナゴ漬け丼（330円）、小鉢3種のキビナゴの唐揚げ（88円）・キビナゴの南蛮漬け（88円）・キビナゴの天ぷら（88円）（※いずれも税込）を求めて会場を訪れました。

○新発売！「さつつんサブレ」のご案内（4月20日）

「手土産に持っていけるような鹿児島大学のお菓子があれば…」そんな声にお応えし、オリジナル商品「さつつんサブレ」が遂に誕生しました！鹿児島に長い歴史を持つもの同士、株式会社風月堂様と鹿児島大学によるコラボレーション商品です。手土産にもぴったりなこちら、スタンドパックの5枚入りとボックスタイプの12枚入りの2種類をご用意しています。本学OBがデザインしたパッケージと個包装には、随所にマスコットキャラクター「さつつん」や本学の商標「かごんまの色」を使用。本学の魅力をたっぷり詰め込みました！

商品は本学インフォメーションセンター・風月堂山形屋店で取り扱いのほか、風月堂各店舗などでの一般向けの販売も予定しております。お見かけの際はぜひお買い求めください。スタンドパック5枚入り（プレーン3枚、紫芋2枚）税込600円。ボックスタイプ12枚入り（プレーン、紫芋、黒酢黒糖、塩味 各3枚）税込1,274円。

（以上、鹿児島大学ホームページから転載、引用）

鹿大「進取の精神」支援基金へのご寄附のお願い

鹿大「進取の精神」支援基金は、地域活性化の中核的拠点の構築、世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、人材育成及びイノベーション機能の強化、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けて整備・充実を図ることを目的としております。

本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

＜寄附目的＞

○一般資金（全学的な活動を支援）

学生の海外派遣や留学生支援、若手研究者の支援など、教育・研究・社会連携活動を幅広く支援します。

○特定資金（特定の事業を支援）

・修学支援事業基金

経済的な理由により修学が困難な学生等に対して経済的支援を行い、勉学の意欲のある学生を支援します。

・その他に、歯学部基金、鹿児島大学病院基金、練習船基金、医学部医学科教育基金、教育学部附属学校園基金、動物病院基金があります。

鹿大「進取の精神」支援基金 Web サイト ➡ <https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/>

リサイクル募金のご案内

鹿児島大学リサイクル募金とは、皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額が鹿児島大学に寄附される取り組みです。寄附金は、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けた整備・充実に役立てられます。

鹿児島大学リサイクル募金 Web サイト ➡ <https://lp.kishapon.com/kagoshima-u/>

遺贈によるご寄附のご案内

本学では、所有しておられる資産の一部を、将来、本学に遺贈（遺言によるご寄附）したいとお考えの方に対し、遺言信託業務を取り扱う提携銀行をご紹介します。提携銀行では、遺言書作成のご相談から遺言内容の執行まで、専門のスタッフがサポートいたします。

遺贈によるご寄附 Web サイト ➡ <https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/cat1353/izou.html>

【提携銀行（五十音順）】

鹿児島銀行 営業統括部（信託チーム）／みずほ信託銀行 鹿児島支店／三井住友信託銀行 鹿児島支店

税制上の優遇措置について

本学へのご寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。また、お住まいの都道府県・市区町村が、条例で本学を寄附金税額控除の対象として指定している場合、個人住民税の税額控除が受けられます。

なお、相続税申告期限内に遺贈により本学にご寄附いただいた財産については、相続税はかかりません。

お問い合わせ先

鹿児島大学総務部総務課 広報・渉外室 基金・渉外係

TEL 099-285-3101 / FAX 099-285-3854

E-mail s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

各学部同窓会活動報告

法文学部同窓会

1. 三八楠法会（文理学部社会学科法律学専攻昭和42年卒）寄贈「楷の木」

昭和38年入学、42年年卒業の文理学部社会学科法律学専攻の同期会「三八楠法会」が卒業50周年を記念して総合教育棟の前に植樹した「楷の木」の説明文の内容を紹介いたします。なお、卒業55周年を記念して、坪地宏昌会長が「卒業して55年 我らが『三八楠法会』」を寄稿されていますので次回35号に掲載予定です。

カイノキ（楷の木、学名：Pistacia chinensis）

ウルシ科カイノキ属落葉高木、中国原産

中国山東省・曲阜の孔林（孔子及び一族の墓所）に植えられたことから「学問の木」とされてきた。

わが国には、大正4年（1915）白川保美博士が曲阜の孔林から種子を持ち帰り育苗してより広まる。その内の二本が、大正11年（1922）11月、第七高等学校造士館に植樹された、「七高ゆかりの楷の木」として七高生に親しまれていたが、昭和20年（1945）6月の鹿児島大空襲で校舎とともに焼失した。

爾来72年、我ら卒業50周年を記念して、後輩たちの学問勉学の向上と母校鹿児島大学法文学部のますますの発展を祈念して楷の木を寄贈し、ここに記念植樹するものである。

平成29年（2017）3月23日

三八楠法会一同（鹿児島大学文理学部社会学科法律学専攻

昭和42年（1967）3月18日卒業生）



2. 第18回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペ

令和4年2月26日（土）第18回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペが南国カンツリークラブで開催されました。

当日は好天にも恵まれ34名の参加で、先輩・後輩、和気あいあいと楽しくプレーができました。優勝は平成13年人文社会大学院修了の松田武泰さんでした。成績は以下のとおりです。

優 勝	松田 武泰（H13年、人文社会大学院修了）	ネット	70. 8
2 位	元山 義和（S48年、法文学部経済学科卒）	ネット	72. 0
3 位	今村 敏治（S45年、法文学部経済学科卒）	ネット	72. 2

「鹿児島の教育を語る会」20年の歩み (過去・現在から未来への架け橋)

鹿児島大学教育学部では、平成14年に教育学部在學生とOBによる教育を語る会が発足・スタートした。我が教育学部同窓会の目的の一つである「母校の発展と教育振興への貢献」を具現化すべく、学部当局の絶大な協力を得て実現したのである。教師を目指す学生と教育経験のあるOBが一堂に会し、学生の真摯な生き方や教職への熱い思いと、OBの鹿児島の教育を発展させたい強い思いが沸騰して、大いに盛り上がった。参加者の感想に、「初対面とは思えないような親しさで、世代を超えて共感し合えた。同窓という目に見えない絆を強く感じた。」とあり、その後の開催の礎となった。以下はその20年の歩みである。

第1回～第5回（発表形式）

第1回～第5回は、各専修学科代表学生16人と卒業生1～2人による発表と質問、意見交換などで協議を深めた。特に、第4回では、中国南京工業大学の教員・学生11人が参加し、国際性豊かになった。



第6回～第9回（フォーラム形式）

平成19年の第6回からは、テーマ「教師への道」を設定し、フォーラムによる協議が進められた。卒業生代表による在學生への応援メッセージ「教師を目指す後輩へ」をもとに意見が交わされ、確かな教師への道が情熱的に語られた。この4年間のフォーラムで、すべての専修学科の学生がパネリストとして登壇し、教師への道を目指していった。

第10回～第18回（グループ協議形式）

記念すべき第10回からは、参加者全員の語らいを増やし、さらに充実させる目的でグループ別の協議形式で進められた。この年から協議テーマを、第10回～第14回は「人間として大切なこと」、第15回～第18回は「未来への挑戦」と設定した。各専修学科代表1人が、テーマについての自らの考えや生き方などを提言としてまとめ、それをもとに各グループで論議を深めていき、全体会で報告された。

ノンアル懇親交流会

「語る会」のもう一つの楽しみは、OBと学生さんたちとのアルコールなしの「語る会」である。会場を教育学部食堂（エデュカ）に移して、心のこもったオードブルやおでんをつつきながらの“本音”の語り合いが和やかに展開される。まさに、世代は大きく離れていても「先輩と後輩」の強いきずなを実感するひとときである。



第19回・20回は開催中止

一昨年度、昨年度は、新型コロナウイルス感染や変異株の拡大など、長引くコロナ禍の影響で開催を見送った。

本年度第21回「語る会」はコロナ対応型の「フォーラム形式」で、令和4年11月25日（金）に教育学部構内での開催を目指して計画中である。

理学部同窓会南明会

理学部賞表彰

令和4年3月25日の卒業式において、理学部賞および稲盛賞が授与されました。理学部賞は例年、南明会と理学部が連名で表彰しています。理学部賞受賞者のコメントは以下のとおりです。おめでとうございます。

小島 道 (数理情報 令和4年卒)

理学部賞を受賞して、受賞することなど予想もしていなかったためとても嬉しかったです。一人では絶対に受賞できなかった賞だと思いました。家族の支えは勿論のこと、同じ学科の友人や先輩の助けもあり、受賞することができました。ご指導していただいた先生方や支えてくれた全ての方々にこの場を借りて感謝申し上げます。新型コロナウイルスの感染拡大が起こる以前に、リフレッシュスペースで同じ学科の友人たちと一緒に勉強したことが昨日のこのように思い出されます。リフレッシュスペース(略称リフレ)とは、理学部棟にあるコミュニケーションを取ったり休憩したりする場所のことで、数理情報科学科がよく使う4階と5階のリフレにはホワイトボードが設置されています。ここで同じ学科の友人たちと数学で分からない箇所を教え合ったり、議論したりしてテストに向けて一緒に勉強していました。私も理解できない箇所があったときは理解できている友人に教えてもらい、反対に理解できていない人がいれば教えました。私はこの時間がとても好きで、勉強も苦ではなく、今となっては学部での楽しかった思い出のひとつです。無事卒業して、このような賞をいただけたのは多くの助けがあったからだと感謝しています。現在は大学院に進学していますが、感謝の気持ちを忘れず、理学部賞を受賞したことを誇りに思い、これからも日々精進していきたいです。

林 佑香 (地球環境 令和4年卒)

この度は、このような名誉ある賞をいただき誠にありがとうございます。ご指導いただきました先生方や、大学生活を支えてくださったすべての方々にこの場を借りて深く感謝申し上げます。理学部では、座学ばかりでなく、鹿児島島の豊かな自然を生かしたフィールドワークや実験などを通して、自分の興味のある分野について、より深く学ぶことができました。3年生からは、新型コロナウイルスの感染拡大によって、なかなか学校に行くことのできない状況下ではありましたが、ズームやオンデマンドによる授業を通じて、以前に比べパソコンに触れる機会が増えたため、社会に出る前にとっても良い経験になったと思います。同じ学科の友達とズームで話し合いながら、朝方までレポートを作成したことも今となっては素敵な思い出です。この4年間で得た経験を糧にして、これからも邁進して参ります。最後になりましたが、今後も鹿児島大学理学部の更なる発展を心からお祈り申し上げます。



写真は前列左から

林 佑香 さん (地球環境科学科, 理学部賞受賞)
小島 道 さん (数理情報科学科, 理学部賞受賞)
岡村 浩昭 理学部長
山上 真以 さん (生命化学科, 稲盛賞受賞)
新村 遼 さん (物理科学科, 稲盛賞受賞)

後列は内海俊樹 南明会副会長 (右から3人目) と各学科長

医学部同窓会

今から盛り返す同窓会

会報32号（2021年7月）でOBゴルフ大会の開催を提案したが、今春令和4年（2022年）4月17日蒲生カントリークラブでめでたく第41回鹿児島大学O.B.&O.G.ゴルフ大会が開催された。一堂に会する閉会式・表彰式はできなかったし、実際に顔を合わせる参加者の数は限られたが、総勢233名のOB・OGが集まり親睦を深めた。ゴルフ場でクラスターが発生した報告はないので開催しようと思いついたものの、やはり何かあったらという一抹の不安は抱えていたが、何事もなく終了し安堵している。大会実行委員長、各学部キャプテン・担当者にお祝いと感謝を申し上げたい。

一方、新型コロナウイルス感染症拡大のため通常と同窓会活動が低迷している。鶴陵会も本部の役員会・評議員会・総会や福岡、関東、近畿など各支部の総会もここ2年間開催されていない。鶴陵會報は例年通り発刊しているが、支部便りや学年便りで「集まり」の報告はない。それでも各支部会長、各学年評議員から何らかの報告をして頂いて、会報のボリュームを維持することができている。今年は福岡支部では総会を現地開催とOnlineのハイブリッド開催を計画していると伺っている。鹿児島本部の役員会・評議員会については会場を広くとり感染対策を十分行って対面で開催することを考えている。高齢会員にとってはOnline開催などはハードルが高く、それを実現しようとする事務局の負担も増加すると思われる。ワクチン接種も3回目が済み、高齢者でも抗体が増加し比較的感染機会は減少していると考えられ、密閉・密集・密接の3密をさげ感染対策を十分に取ることで対面での開催も可能となってきた。今から盛り返す同窓会でありたいが、懇親会についてはまだ見通しは立たない。

（文責：医学科同窓会鶴陵会 会長 高松英夫）

保健学科同窓会理学療法学専攻部会 活動報告

今春の新年度は、「with コロナ」と言われ少しずつ生活圏が拡大しつつあり今までの生活に戻り始めているような印象です。学生さんたちを思うと、4年間の中のうちの2年間以上の貴重な時間と学びの経験の場をこのコロナ禍において失い本当に残念に感じます。

そのような中、昨年度、同窓会が現役生にできることを実行しました。現役生は、実習機会の損失による学習機会の損失だけでなくアルバイトの制約もあり金銭面でも苦しい思いをしていること聞き、支援金を送ることにしました（支援金に賛成した同窓生は98%でした）。特に4年生は臨床実習や卒業論文があり、アルバイトが現実問題としてありました。そこで昨年度、同窓会として金銭的な支援を4年生へ行うことに決定しました。4年生の皆さんは、国家試験会場の福岡へ行く交通費として使用してくれました。のちにこの学年の卒業生と会うと大変感謝されました。会長として支援をして本当によかったと思った次第です。

このような苦境の中でも前を向いて社会の中で貢献しようとする卒業生をみるにつけ若さとは本当に素晴らしいと感じます。これからの鹿児島、そして日本を支えていく若者をこれからも何らかの形で支援ができればと思います。

（文責：保健学科同窓会理学療法学専攻部会 会長 宮崎雅司）

歯学部の主な行事

7月 10日（土） 第一回評議員会 ハイブリッド形式 鹿児島県歯科医師会館

9月 24日（金） Student Dentist 認定証授与式が開催され、同窓会からは5年生の臨床実習用の白衣贈呈が行われた。

10月上旬 会報誌（第30号）の発刊

11月 11日（木） 進路相談会 初のWeb開催 講演 道添圭司先生

11月 20日（土） 総会・学術講演会 鹿児島県歯科医師会館

学術講演会 同窓会奨励賞 ソンチョンファン先生（顎外）・瀬名浩太郎先生（歯周病） 2名が受賞。

特別講演 「誰でも今すぐ可能な口腔細胞診」：新潟大学歯学部口腔病理学教授 田沼順一先生（鹿児島大学歯学部11期）

3月 12日（土） 第二回評議員会 歯科医師会館にてハイブリッド形式開催。

3月 25日（金） 令和三年度鹿児島大学卒業式（本学にて代表者のみの出席開催）歯学部学位授与式、謝恩会は中止。

同窓会賞 永田香織。村上会長より賞状と商品券を授与。



(写真1)臨床実習進学生の白衣授与式の一コマ



(写真2)11期卒業生、田沼教授(新潟大)の講演

*コロナ禍においても鋭意、同窓会活動を行っております。写真は白衣授与式において同窓会より5年生に歯学部ロゴマーク入りの白衣の供与を対面で行いました（写真1）。同窓会授与式では永田さんに歯学部同窓会室に来て頂いて、会長より同窓会賞の授与を行いました（写真3）。学生の皆さん、卒業、おめでとうございます。また、同窓会総会でご講演頂きました田沼先生、有り難うございました（写真2）。益々のご活躍をお祈りいたします。

（文責：村岡、佐藤）



(写真3)同窓会賞受賞式の一コマ

工学部同窓会栄誉会員とコロナ禍での同窓会活動の展開

令和2年度に新設された制度により、稲盛和夫氏と岸園司氏が工学部同窓会の栄誉会員となりました。社会における両氏のご功績については皆様もご承知のことと存じますが、稲盛氏におかれましては、工学部での稲盛奨学基金・稲盛学生賞の設立、本学への稲盛会館・稲盛記念館の寄贈、稲盛アカデミー講座の開設、寄附金など、永年にわたる研究・教育活動への幅広いご支援を賜りました。岸園氏におかれましては、第9代工学部同窓会会長として会の発展にご尽力を賜り、工学部関東合同同窓会や鹿児島大学同窓会連合会の関東支部設立に際して、多大なるご貢献をいただきました。また、ご逝去された後、工学部や工学部同窓会の発展を願われた氏の意志を御夫人が引き継がれ、そのご寄附により同窓会会員の功績を讃える「岸園賞」と、同窓生の研鑽と懇親を深める「司会」が創設されました。これら両氏の多大なる御業績を会員、学生などに広く紹介するため、2021年11月、工学部共通棟の1階ロビーにパネルが設置されました(写真1)。特に、次代を担う学生が両氏の偉業に触れ、大いに刺激されることを願っております。

他方、日頃の同窓会各部署の諸活動について、コロナ禍における行動制限が続くなか、オンラインによる新たな交流が始まっています。令和3年度は、化学工学プログラム・化学生命工学プログラム・南窓舎密会の共催による講演会「先輩の話を聞いてみよう(2021年10月9日)」や、建築学科・AOI会の共催による建築ナビ「先輩と進路・就職を語る会(2021年11月13日)」が、対面とオンラインの併用で開催されました。南窓舎密会の講演会には現役学生を含む同窓生と教員が110名(オンライン100名、対面10名)参加し、山口やよい氏(1983年 応化卒、鹿児島県薬剤師会)と有水伸一氏(1997年 応化工修了、株式会社サナス)が、仕事での心構えや企業が望む学生像等についてご講演をされました(写真2)。AOI会の建築ナビには、現役学生を含む同窓生と教員が220名(オンライン120名、対面100名)参加し、岩本茂美氏(1985年修了、株式会社傳設計)、後藤友紀氏(2003年修了、Studio 4 Architecture(London))、藤園武史氏(2007年 修了、三協立山株式会社)、柳健吾氏(1997年修了、東レ建設株式会社)から、社会での経験や学生時代の思い出など、後輩達へのメッセージをいただきました(写真3)。このような場所に縛られないオンラインによる交流のかたちは、コロナ禍により得られた光明の一つだと言えます。今後、コロナウイルスとの共生や、環境問題に起因する移動の概念の変化など、新しい暮らし方への適応が求められる中、情報化技術を用いた新たな同窓会活動を考える良い機会になったのではないかと思います。

(文責：工学部同窓会庶務幹事 鷹野 敦)



(写真1)紹介パネル 工学部共通棟1Fエントランス



(写真2)2PG・南窓舎密会共催「先輩の話を聞いてみよう」
上 山口氏、下 有水氏



(写真3)AOI会建築ナビ
左より 藤園氏、岩本氏、柳氏、塩屋教授
スクリーン 後藤氏

農学部あらた同窓会

令和3年度総会を開催しました。

令和元（2019）年には「農学部110周年記念ミニ式典」を「ジェイドガーデンパレス」で盛大に開催しましたが、令和2年度は「新型コロナウイルス感染症によるパンデミック」の影響で「総会」、「懇親会」とも開催できませんでした。昨年・令和3年度は「新型コロナ禍」が完全には収束していませんでしたので「懇親会」は中止にすることにし、「令和3年度総会」については新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら判断することにしました。「総会」開催時には幾分収まっていたことから「密を避ける」ために広い農獣共通棟101号教室を借用し、令和3（2021）年11月23日に「評議員会」も兼ねて開催しました。出席者は三十数名で少なかったですが「対面」で開催し、あらた同窓会活動方針（案）や予算（案）の審議ができ、質疑応答の後承認されました。その模様や審議内容につきましては令和4年3月25日に発行し、会員の皆様に頒布している「あらた同窓会報令和4年春季号」に詳細に掲載しているとともに、あらた同窓会HP (<http://aratadousokai.org/>) にもアップしておりますのでご覧ください。

「あらた同窓会報令和4年春季号」を発行しました。

令和3年は学生向け会報である「あらた同窓会報令和3年秋季号」のを発行に続いて、今年3月25日には「令和4年春季号」を発行しました。

昨年に引き続き「新型コロナウイルス禍」の影響で各支部等からの「支部便り」や「クラス会・グループ便り」が大幅に減少いたしましたので、令和3年春季号と同じように「エッセー」等を各支部や全国の会員からご寄稿いただきました（この「エッセー」等は会員等の近況を知らせるという点から好評ですので、次年度以降も春季号の大きな柱になるものと思われまます）。右に目次を示しましたが、例年ご寄稿いただいている「あらた同窓会長の巻頭言」、「農学部長のご挨拶」、「定年退職される先生方のご挨拶」、「会員からの寄稿（エッセーなど）」、「学生便り（卒業・修了にあたって）」および「本部だより（あらた同窓会の活動や会計について詳細に記載）」など表紙を含めて38ページの会報が発行できました。この春季号は農学部の学生・院生、教員の他、80歳以上の会員および終身会員（現在はこの制度はありません）、過去5年以内に会費納入をいただいている会員に加えて「会費納入の無い昭和42年から5年ごとの卒業生で住所が判明している会員」に郵送いたしました。詳細はあらた同窓会HP (<http://aratadousokai.org/>) にアップしましたのでご覧ください。



目次

1. 会長挨拶	2
冬会たりなば春遊からじー	藤田 晋輔
2. 学部長挨拶	3
第3期中間目標・中間計画期間の農学部の実績	橋本 文雄
3. 追悼文	4
堀口教授の思い出	橋本 直也
4. 定年退職者挨拶	5
農学部学生としての1年、教員としての34年間	西井 久
大学教師の運命を決するもの	田代 正一
定年退職を遂げて	イブラヒム ヒッサムラフダン
5. 会員からの寄稿（エッセーなど）	
「玉利池」について調べてみました	富永 茂人
「深い沢」	菊川 明
ネジラの織毛が織り込まれた	中山 義治
20年前の20人規模の会食	藤田 晋輔
「自分史」	寺尾 國一
私にとってのあらた会	菅 博英
在籍あらた同窓会 支部だより	具塚 洋平
人生の楽園	古松 英明
社会人1年目を振り返って	西田 梨奈
園芸学科農園芸学研究室昭和59年卒業生の集まり（その2）	橋本 晋・早崎 古久
暴動と一本支隊とオミクロン株	福山 誠
コロナ禍の休日ー風呂ビールー	飯元 公成
6. 学生便り（卒業・修了にあたって）	
気づいたらまっていた部活	戸高 愛海
4年間の振り返りと後編	花本 龍彦
大学生活から得た教訓	寺田 竜大
4年間の振り返り	東藤 万弥
大学での4年間の振り返り	磯尾 さら音
僕の夢	橋本 大志
4年間の大学生活を振り返って	赤坂 晋吾
7. 恩師・同窓のお慶びならびに同窓の目標	事務局
8. 本部便り	事務局
9. 役員名簿	事務局
10. 会計報告	事務局
11. 鹿児島大学農学部あらた同窓会会制	事務局
12. 編集後記	橋本 直也

水産学部24年ぶりに優勝！ 第41回鹿大OB・OGゴルフ大会開催にあたって

大会実行委員長 岩元 善巳
(水産学部同窓会・魚水会会長)

新型コロナウイルスが全世界で蔓延し、39回、40回大会は中止に追い込まれました。今年の41回大会は万全のコロナ対策をして、開催する運びとなりました。3月25日に開幕したプロ野球も今季は3年振りに政府、自治体のイベント人数制限のないスタートとなり、東京ドームの巨人—中日開幕戦は3万8千人の満席のスタートとなりました。

鹿大ゴルフ大会はご存じのように、全国の総合大学では類をみない歴史と規模を誇ります。41年前の第1回大会で初代実行委員長の西督平氏（S28水産）は『鹿大OBが、鹿児島各界を動かすDRIVING POWERとならなければならない時機にきています。この機に、諸兄との共通の場を持ち、早春の一日を共に過ごすことは誠に痛快の限りです。この催しを契機に学部間、先輩・後輩間相互の親睦を深め、地域社会でより大きなPOWERとなることを期待します』と挨拶しています。

また、第1回から鹿児島大学長がこの大会の会長になっていただき、当時（41年前）の石神兼文学長は『西督平氏より鹿大ゴルフの会長を引き受けて欲しいとの申し出があり、鹿大発足以来30年来、初めての壮大な企画で話を良く聞くとその雄大な主旨、綿密な計画と準備、また西氏の不退転の熱意にすっかり感服して、喜んで大会会長をお引き受けしたのであります。（中略）鹿大卒業生諸兄は今や全国県内外の広汎な各界にわたって活躍されていますが、各学部を通ずる繋がりはいまだ皆無でした。この度のゴルフ大会を通じて全学部卒業生の縦横の連絡・親睦がはじめて創られたことは、まことに画期的な壮挙であると思います』と述べられています。その後、3年目に石神学長の提唱によりゴルフだけでなく、全学部の卒業生が一緒に集まる懇親会を開催しようとのことで、全学部同窓会懇親会が4月の入学式の後に開催されるようになりました。その行事は、現在の鹿大同窓会連合会が発足した後も18年間続いており各学部の連携がスムーズに行われるための礎になっています。

母校、鹿児島大学は創立以来、10万人を超える卒業生を世の中に送り出し、地元鹿児島だけでなく、全国や世界で活躍し、それぞれの社会で大きな影響力を発揮し社会の振興に大きく貢献しています。そのような動きに呼応する為に第1回から参加費からささやかではありますが大学へ賛助金を差し上げることを続けて参りました。この大会が始まる前の水産学部だけの大会や水産VS農学、水産VS工学部などとの対抗戦の時代から参画していた私が江口正純氏（S34文理）から実行委員長を引き継いだ時に江口さんから『全国にも珍しい歴史と規模を誇るこの大会を50回、100回大会と続けて行くように努力して欲しい』と言われ、なんとか意志を受け継ぎ、各同窓生や大学の職員の方々と一緒になってその絆を強固なものにして行きたいと思います。

この大会を万全の体制で支援して下さっておられる南日本新聞社や蒲生カントリークラブのスタッフの皆様、鹿大同窓会連合会の役員の皆様や鹿大OB・OGゴルフ大会の実行委員会の皆様方のご努力を称えながらご挨拶いたします。

(第41回鹿児島大学OG・OGゴルフ大会パンフ掲載文より)

(コロナ禍の為に、魚水会の活動が出来ず、鹿大ゴルフ大会実行委員長を兼務している為に掲載しました)

共同獣医学部紫友同窓会

1. ベストクラスメート賞

本年度は28名の卒業生が巣立って行きました。新型コロナウイルス感染症蔓延の中、思うような学生生活を送れなかったとの思いが強かったかもしれませんが、彼らがこれからの獣医療界を牽引する活躍を見せてくれることを期待しています。

例年卒業式当日の午後に行われる学部の学位記授与式において、同窓会としてベストクラスメート賞を授与してきました。本賞は卒業までの6年間にクラスのみとめ役を熱心に行った男女会員各1名を卒業生の投票により選出し表彰するものです。今年度も感染症予防の観点から、受賞者の園川竜征、藏原なつめの両氏には事務局に来ていただき、新納会長から賞状と記念品が手渡されました。



満開の桜を背景に記念撮影。左から藏原なつめさん、新納会長、園川竜征君

2. 新入生の入会歓迎

4月4日（月）に開催された新入生オリエンテーションで、会長が入学を祝し同窓会への入会を歓迎する挨拶を述べました。その中で資料に基づいて同窓会の沿革やこれまでの学部への支援活動が紹介され、今後も学部や学生支援を継続していくことが述べられました。新入生に対しては充実した学生生活を送るとともに同窓会活動への積極的な参加と協力を期待する旨の発言がありました。



新入生を前に挨拶する新納会長

3. 事務局会議

6月3日（金）に学部内で会長同席のもと事務局会議を開催し、評議員会で審議する議題及び報告事項について検討しました。評議員会は今年度も新型コロナウイルス感染症の予防対策の観点から書面会議とすることが確認されました。

▶特別寄稿◀

第41回鹿児島大学 OB・OG ゴルフ大会挙行され、水産学部優勝

鹿児島大学OB・OGゴルフ大会が新型コロナウイルス感染症の為に2年中止になり、今年、3年振りに感染症対策を充分に行い、第41回大会が4月17日(日)に223名の最多出場に迫る多くの参加者を得て晴天の中、蒲生カントリークラブにて盛大に開催されました。

水産学部が2回目の団体優勝を勝ち取りました。準優勝は教育学部、3位は医学部でした。

個人優勝は山下雄造氏(工学部)、2位は和泉勝一氏(農学部)、3位は宮下守氏(教育学部)でした。

41年間、このような大きな大会でホールインワンが1回も出ていないので、今年はお出るのはと期待しましたが、残念ながら来年に持ち越しでした。今年はいじシュートが5人も出ました。

総合大学で全国でも珍しい歴史と規模を誇るこの大会が今後50回大会、100回大会と長く続くことを祈念します。来年も多数のご参加をお待ちします。

大会	開催日 開催場所	大会会長 実行委員長	優勝	準優勝	個人優勝 (学部)	参加人数	備考
第1回	空港36CC 昭和57年4月20日	石神 兼文 西 督平	工学部	医学部	大和矢健郎 (教育学部)	157	法文・理学部含め7学部で鹿児島大学部対抗戦が始まる
第2回	空港36CC 昭和58年4月17日	石神 兼文 西 督平	医学部	法文理学部	外山外人 (農学部)	不明	
第3回	空港36CC 昭和59年4月8日	石神 兼文 西 督平	工学部	医学部	田原迫昭爾 (農学部)	167	南日本新聞社幹事に初参加
第4回	空港36CC 昭和60年4月21日	石神 兼文 西 督平	法文・理学部	医学部	牧 安伸 (法文学部)	135	第1回全学部同窓会懇談会始まる
第5回	空港36CC 昭和61年5月11日	石神 兼文 西 督平	法文・理学部	医学部	石走一行 (法文学部)	127	教官チーム13名初参加
第6回	空港36CC 昭和62年4月19日	井形 昭弘 西 督平	医学部	法文理学部	安藤 旭 (水産学部)	124	
第7回	空港36CC 昭和63年5月01日	井形 昭弘 西 督平	医学部	法文理学部	吉井紘興 (医学部)	136	井形学長がゴルフを始める
第8回	空港36CC 平成元年4月16日	井形 昭弘 西 督平	工学部	医学部	古川博政 (医学部)	177	七高会13名初参加8学部
第9回	空港36CC 平成2年4月22日	井形 昭弘 西 督平	医学部	工学部	日高照男 (医学部)	182	本部職員18名初参加9学部
第10回	空港36CC 平成3年4月21日	井形 昭弘 西 督平	医学部	教育学部	黒木克郎 (医学部)	257	歯学部20名初参加10学部、西さん逝去
第11回	蒲生CC 平成4年4月19日	井形 昭弘 三角桂次郎	教育学部	法文理学部	原口充郎 (法文学部)	248	この年から蒲生ゴルフCCへ
第12回	蒲生CC 平成5年4月18日	早坂 祥三 三角桂次郎	工学部	医学部	馬場悦郎 (水産学部)	260	
第13回	蒲生CC 平成6年6月5日	早坂 祥三 三角桂次郎	工学部	法文理学部	石走一行 (法文学部)	236	
第14回	蒲生CC 平成7年5月28日	早坂 祥三 三角桂次郎	工学部	教育学部	今村伸一 (教育学部)	228	
第15回	蒲生CC 平成8年4月21日	早坂 祥三 三角桂次郎	教育学部	水産学部	川畑英樹 (医学部)	250	
第16回	蒲生CC 平成9年4月20日	田中 弘允 三角桂次郎	工学部	水産学部	川畑勇一郎 (工学部)	265	
第17回	蒲生CC 平成10年4月19日	田中 弘允 三角桂次郎	水産学部	教育学部	野村紘一郎 (医学部)	254	
第18回	蒲生CC 平成11年4月18日	田中 弘允 三角桂次郎	教育学部	法文理学部	樋元健彦 (歯学部)	210	
第19回	蒲生CC 平成12年4月16日	田中 弘允 三角桂次郎	教育学部	法文理学部	山元篤郎 (教育学部)	216	
第20回	蒲生CC 平成13年4月15日	田中 弘允 三角桂次郎	本部・職員	工学部	横峯四郎 (医学部)	198	

大会	開催日 開催場所	大会会長 実行委員長	優 勝	準優勝	個人優勝 (学部)	参加人数	備 考
第21回	蒲生CC 平成14年4月14日	田中 弘允 三角桂次郎	教育学部	工学部	湖田孝康 (工学部)	165	
第22回	蒲生CC 平成15年4月20日	永田 行博 三角桂次郎	教育学部	本部・職員	服部壽夫 (本部・職員)	183	20回鹿大同窓会懇談会
第23回	蒲生CC 平成16年4月18日	永田 行博 美坂幸治	教育学部	歯学部	宫里弘見 (教育学部)	199	第1回鹿大連合同窓会結成
第24回	蒲生CC 平成17年4月17日	永田 行博 江口正純	教育学部	農学部	武 博邦 (医学部)	185	
第25回	蒲生CC 平成18年4月16日	永田 行博 江口正純	法文・理学部	教育学部	美坂幸治 (医学部)	230	
第26回	蒲生CC 平成19年4月22日	吉田 浩己 江口正純	教育学部	工学部	松下 敏 (教育学部)	236	
第27回	蒲生CC 平成20年4月20日	吉田 浩己 江口正純	教育学部	法文理学部	岩切紘一 (教育学部)	225	
第28回	蒲生CC 平成21年4月12日	吉田 浩己 江口正純	教育学部	工学部	山切康弘 (水産学部)	211	
第29回	蒲生CC 平成22年4月18日	吉田 浩己 江口正純	教育学部	工学部	安永義寿 (農学部)	216	
第30回	蒲生CC 平成23年4月17日	吉田 浩己 江口正純	教育学部	工学部	斉藤利明 (農学部)	214	鹿児島大学OBゴルフ大会へ 名称変更
第31回	蒲生CC 平成24年4月15日	吉田 浩己 江口正純	教育学部	歯学部	樋元健彦 (歯学部)	198	七高会 退会
第32回	蒲生CC 平成25年4月21日	前田 芳實 江口正純	工学部	法文理学部	児玉義人 (教育学部)	198	
第33回	蒲生CC 平成26年4月20日	前田 芳實 江口正純	教育学部	工学部	村永直美 (法文理学部)	216	
第34回	蒲生CC 平成27年4月19日	前田 芳實 江口正純	教育学部	歯学部	内山弘訓 (教育学部)	216	
第35回	蒲生CC 平成28年4月17日	前田 芳實 江口正純	歯学部	教育学部	佐藤裕幸 (歯学部)	206	
第36回	蒲生CC 平成29年4月23日	前田 芳實 江口正純	工学部	歯学部	松園真一 (工学部)	210	
第37回	蒲生CC 平成30年4月15日	前田 芳實 江口正純	教育学部	歯学部	濱崎 徹 (歯学部)	222	
第38回	蒲生CC 平成31年4月21日	佐野 輝 江口正純	歯学部	教育学部	伊牟田 均 (法文理学部)	200	鹿児島大学OB・OGゴルフ大 会へ名称変更
第39回	新型コロナウイルス感染症の為に中止						
第40回	新型コロナウイルス感染症の為に中止						
第41回	蒲生CC 令和4年4月17日	佐野 輝 岩元 善己	水産学部	教育学部	山下雄造 (工学部)	223	

▶特別寄稿◀

共同獣医学部の取組み

共同獣医学部・学部長
三角 一浩

鹿児島大学共同獣医学部は、令和3年度末をもって10年を迎えました。これまで欧米水準の獣医学教育を目標に教育改革を進め、令和元年度には、欧州獣医学機関協会（EAEVE）による獣医学教育評価を受審し認証を取得しました。今後も獣医学教育の改善を継続し、EAEVE認証更新を繰り返し維持していくことで、我が国における獣医学教育改革を先導していきます。また国内の他大学におけるEAEVE認証取得を目指した教育改革を、認証取得校という立場でコンサルテーションを行い、後方支援しています。

我が国の獣医学教育では、欧米の獣医師養成課程で通常行われる「大学教員による産業動物の参加型臨床実習」が十分に実施できておらず、その代替法として全国のNOSAI診療所等への学外インターンシップが実習の主体となっています。動物衛生学や食品衛生学実習も全国の家畜保健衛生所や食肉検査所等でのインターンシップに頼らざるをえない状況です。しかしこれら代替法には、受入できる学生数に限界（全国200名程度の学生が対象）があり、大きな課題となっています。今後は、学外インターンシップのみに頼ることなく、教員が大学でしっかり教えるという体制づくりが肝要と考えています。

そのため、鹿児島の地にある獣医学部として、畜産獣医学の教育研究拠点の形成に取り組んでいます。平成27年8月に、大崎町の活性化センターを借り受けて診療所開設した「大隅産業動物診療研修センター」では、特任教員2名を配置して産業動物の一次・二次診療を行い、それに本学の学生を同行して行う参加型実習の初期モデルを作り上げました。次のステップとして、曾於市の財部高校跡地に、「動物福祉に配慮した畜産農場の先進的モデル」を整備し、それらの施設を活用して、より規模の大きな参加型実習の場を作ることを考えています。ここには自大学のみならず他大学からも学生を受入れて、卒後教育も含めて年間最大500名の実習を行うことを構想しています。これまで「曾於市と国立大学法人鹿児島大学との南九州畜産獣医学拠点整備における連携協力に関する覚書」を締結し、宮崎大学とも意見交換を重ねて「国立大学法人宮崎大学と国立大学法人鹿児島大学との南九州における畜産獣医学の教育・研究に関する合意書」を締結しました。令和3年11月には、曾於市と鹿児島大学との南九州畜産獣医学拠点事業に係る合同記者発表を行い、令和6年4月の運営開始に向けて、令和4年度には施設整備を進めます。

本県の特徴を活かした畜産獣医学教育の重点化を進めることによって、地域の畜産・獣医業の発展に貢献するとともに、鹿児島大学大学院共同獣医学研究科と連動して、畜産獣医学分野の教育研究を発展させ、地域から世界に向けて活躍する獣医師の養成に取り組んでいるところです。

鹿児島大学同窓会連合会事務局並びに各学部同窓会の連絡先

鹿児島大学同窓会連合会事務局

〒890-8580
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学総務部総務課広報・渉外室基金・渉外係
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-3854
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学歯学部同窓会

〒890-8544
鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
鹿児島大学歯学部内
鹿児島大学歯学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-264-1600
e-mail kashidousou@po2.synapes.ne.jp

鹿児島大学法文学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-30
鹿児島大学法文学部同窓会事務局
TEL 099-250-3211 FAX 099-285-3573
e-mail dousoukai@leh.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学工学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-40
鹿児島大学工学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3494
e-mail kadai.eng.dousoukai@gmail.com

鹿児島大学教育学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
鹿児島大学教育学部事務局内
TEL・FAX 099-285-7718
e-mail dousou@edu.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学農学部あらた同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学農学部あらた同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-8537
e-mail aratakai@mc2.seikyounet.jp

鹿児島大学理学部同窓会南明会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-35
鹿児島大学理学部同窓会事務局
TEL 099-285-8925
e-mail dosokai@sci.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学水産学部同窓会魚水会

〒890-0056
鹿児島市下荒田4-50-20
鹿児島大学水産学部同窓会魚水会事務局
TEL・FAX 099-286-4080
e-mail gyosui@fish.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学医学部同窓会

〒890-0075
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3538/8711 (FAX 兼用)
e-mail k2088185@kadai.jp

鹿児島大学 同窓会連合会

〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学総務部総務課広報・渉外室基金・渉外係
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-3854
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

印刷 株式会社鹿児島新生社印刷
〒891-0132 鹿児島市七ツ島1-3-21
TEL 099-261-0111 FAX 099-261-3100
e-mail kagoshima@shinsei-p.co.jp

